



落 六



夏休みだ。直接体験を！

校長 原島 謙一

7月18日からは夏休みが始まります。ぜひ、夏休みには、普段できない直接体験をしてほしいと願っています。

文部科学省も直接体験活動の教育的意義を次のように述べています。「直接体験は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力など生きる力の基盤、子供の成長の糧としての役割が期待されます。子どもたちは、具体的な体験や事物との関わりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら『なぜ、どうして』と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいきます。そして、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通じて、自らを高め、より良い生活を創り出していきます。また、自然体験の多い子どもの中には、道徳観、正義感のある子が多く、さらに、勉強に対してやる気が出る子どもたちが増えるという統計結果もあります。」

このように豊かな体験は子どもたちを大きく成長させます。自然との触れ合いはもちろん、スポーツ活動、勤労体験、手伝い、ボランティアなど多くの直接体験をすることによって子どもたちは成長していきます。もちろん楽しい体験も必要ですが、「豊かさだけでなく貧しさ、不便さの体験」「温かい保護ではなく汗を流し、泥にまみれる試練の体験」「受け身ではなく挑戦する心を育てる体験」…。色々な苦しい体験を通じて、子どもたちは本当の自分を知り、自立心や他者への思いやり、命の大切さを知っていきます。昨年度よりも5日間増えて夏休み、普段の授業では味わえない「直接体験」を沢山の子どもたちが経験してくれることを願っています。

そして、できましたら保護者の方が「子どもと一緒に面白がってほしい」ことです。完璧なスケジュールを組むプロデューサーや、演出家になる必要はありません。道端の変な石を見て「面白いね!」と笑い合える「共感者」で大丈夫です。親が人生を楽しんでいる姿が、子どもにとっての安心基地となります。

そして何かの体験後には、「今日、気づいたことや、勉強になったことは何だった?」と、振り返りの問いかけを忘れないでください。この問いかけが、単なる体験を、一生モノの「知恵」へと変えてくれるはずです。

保護者・地域の皆様方には、一学期、本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

体育学習発表会を終えて ～1年生～

○かけっこを はしるところを がんばりました。ぎりぎり1いで うれしかった。FH

○だんすの さいごの ぼおずを がんばった。おじいちゃん、おばあちゃんが しゃしんをとってくれてうれしかった。WT

○たまいのだんすも、おちろくこどもひろうのぼおずも がんばった。ままと ぱぱと いもうとが よろこんでくれてうれしかった。HK

○だんすのぼおずを きらきらにした。いえろおにして、かわいいぼおずに できた。YT

○たまいで いれることと、こどもおとなひろうを がんばった。ほいくえんのせんせいがきてくれて うれしかった。ES

○かけっこをはしるのが たのしかった。2いで おしかったなと おもった。こんどは かちたい。MD

○かけっこで、まっすぐはしるのを がんばった。ことしは 3いだったので、らいねんは、2いになりたい。IN

○たまいで おどるところを わすれないように、がんばった。たまをいれるのが、むずかしかった。TS

○かけっこで 1いをとれて うれしかった。せっせんだったので、もっと さをつけて、ごおるしたかった。MH

○たまいの じゃんぼりいみつきいを、えがおで おどるのをがんばった。たまをじゃんぷしてなげたら、はいった。JR

○こどもおとなひろうの おどりを まちがえないように がんばった。「じょうずだった」とほめてもらえて うれしかった。TM